

保育所・幼稚園実習による保育専攻学生の育ち（Ⅱ）

○ 三木知子 広瀬則子 戸江茂博 坂根美紀子
 （頌栄短期大学）（頌栄短期大学）（頌栄短期大学）（頌栄短期大学）

問題と目的

広瀬他(1998)は、実習事前・事後指導において、園、自己評価をレーダー・チャートで示し面談する際に、個々の学生の特性を面談者が把握しておくことの必要性を課題として挙げた。そこで、本稿では、特性を一般性自己効力感(GSE)と統制の位置(LOC)で捉え、その活用について検討する。

一般性自己効力感(GSE)とは、Bandura(1977)が唱えた社会的学習理論の中心的概念である自己効力感 — 個人がある状況において必要な行動を効果的に遂行できる可能性の認知(成田他、1995) — の内、個人の行動に一般的、長期的な影響を持つ効力感であり、人格特性と見なし得るものである。

統制の位置(Locus of Control:LOC)とは、Rotter(1966)が唱えた概念であり、内的統制信念 — 自分の行為に引きつづいて生起することは、自分の能力や努力など自分の比較的永続的な特性に随伴しているという信念 — と外的統制信念 — 自分に起こることは、幸運、偶然、運命の結果として、また力を持った他者の統制下で起こるという信念 — で人格特性を捉えていく考え方である。

ゆえに本稿の目的は、人格特性をGSEとLOCで捉え、GSE得点が高く、LOCの内的統制得点の高く外的統制得点の低い者(H群)とGSE得点が低く、LOCの内的統制得点が低く外的統制得点の高い者(L群)を抽出し、園評価、自己評価、実習自己評価、保育職就業志望度、および保育職就業適性認知度について群間比較を試みるものである。

方法

(1) 対象者：S短期大学保育科学生 272名。

(2) 使用した評価と尺度：①園評価、自己評価および実習自己評価尺度は(Ⅰ)に同じ。②GSE尺度は三木(1998)で示した45項目を使用。7段階評定。③LOC尺度は鎌原他(1982)の18項目を使用。5段階評定。④幼稚園教諭、保育士職就業志望度および幼稚園教諭、保育士職適性認知度については、7段階評定。

(3) 手続き：全ての評価、尺度共、(Ⅰ)と同様、保育所実習Ⅰ、Ⅱ後、および幼稚園実習後に実施。

結果および考察

(1) GSE 尺度得点とLOC 尺度得点

GSE 尺度の各項目の反応を、「全くその通りである」を7点、「全くその通りでない」を1点とし、得点化した。反転項目はこの反対で得点化した。この45項目の得点について、保実Ⅰ後(N=441)、保実Ⅱ後(N=431)、幼実後(N=439)の各時点において、共通性の推定にはSMCを用いた主因子法による因子分析を試みた。どの時点においても、第1因子の固有値が他よりもかけ離れて高かったが(例、保実Ⅰ後においては、第1因子：10.35、第2因子：3.74)、前分析結果も考慮し4因子を採用した。さらに3時点とも、Varimax回転後の因子負荷量が.40以上の項目を取り上げ、処理の対象とした。第1因子は、「一回の挑戦でできないことがあっても、できるまで挑戦を続けるほうである」を含め11項目で、「行動の持続性」と名付けた。第2因子は、「小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである」を含め6項目で、「失敗に対する不安」と名付けた。第3因子は、「友人より優れた能力がある」を含め6項目で、「認知された能力・自信」と名付けた。第4因子は、「新しい友達をつくるのは苦手なほうである」を含め4項目で、「対人行動の積極性」と名付けた。各対象者について、各因子に含まれる項目の合計得点を算出し、保実Ⅰ後、保実Ⅱ後、幼実後についての平均得点を表1に示した。

LOC尺度については、「全くその通りである」を5点、「全くその通りでない」を1点とし、内的統制尺度(I尺度)9項目と外的統制尺度(E尺度)9項目に分けて得点化した。各対象者について、両尺度に含まれる項目の合計得点を算出し、保実Ⅰ後、保実Ⅱ後、幼実後についての平均得点を表1に示した。

3時期間のGSEとLOCの各尺度得点について有意差検定をした結果、「認知された能力・自信」においてのみ有意差があった($F(2, 813)=9.99$ $p<.01$)。この結

表1 保育所実習、幼稚園実習後のGSE,LOCの平均得点

	保実Ⅰ後	保実Ⅱ後	幼実後
GSE			
行動の持続性	48.83(10.12)	48.04(9.62)	49.54(10.38)
失敗に対する不安	20.61(7.12)	21.04(6.72)	20.92(6.67)
認知された能力・自信	24.16(5.20)	24.49(3.72)	25.91(5.44)
対人行動の積極性	17.25(4.39)	16.89(4.30)	17.38(4.44)
LOC			
I尺度	33.26(4.27)	32.55(4.55)	33.10(4.76)
E尺度	23.47(5.09)	23.25(4.81)	23.58(5.35)

(注) N=272 ():SD

果はGSE、LOCとも全体的には、かなり高い安定性を示していると言えよう。またこのことは相関係数（「認知された能力・自信」では $r=.62\sim.68$ であったが、他は、 $r=.75\sim.86$ であった）からも指摘できる。

「認知された能力・自信」について、個々の差の検定をした結果、保実Ⅰ後と幼実後、保実Ⅱ後と幼実後に1%水準で有意差があった。この結果は、幼稚園実習後で自分自身の能力・自信についての認知が高くなっていることを示している。保育実践場面における経験による育ちの一端が現れているものと言えよう。

（2）群の設定

GSE 尺度「行動の持続性」の11項目の合計得点が、平均値+1SD 以上で、LOC の I 尺度得点が平均値以上、かつ E 尺度得点が平均値以下の者を抽出し、H 群（22 名）とした。GSE 尺度「行動の持続性」の11項目の合計得点が、平均値-1SD 以下で、LOC の E 尺度得点が平

均値以上、かつ I 尺度得点が平均値以下の者を抽出し、L 群（16 名）とした。

（3）群間比較

園評価（態度10項目、内容 6項目）、自己評価（態度10項目、内容 6項目）、実習自己評価尺度（「実習への取り組み度」10項目、「実習園との合致度」 6項目、「実習についての満足度」 4項目）、幼稚園教諭、保育士職就業志望度および幼稚園教諭、保育士職適性認知度についての群別平均得点を表2に示した。実習自己評価の「保育職への憧れ度」 3項目については、得点の分布に際立った偏りがあったため、3項目の合計得点が14点ないしは15点の者の出現率で示した。

表2を見ると、全て数値ではH群の平均得点がL群より高くなっているが、有意差があったのは表中に示した箇所のみであった。この結果は、「行動の持続性」側面の自己効力感が低く、外的統制傾向の強い者は、自己効力感が高く、内的統制傾向の強い者に比し、特に実習園の指導保育者による態度に関する評価と実習に関する努力や取り組みについての自己評価が顕著に低いことを示している。L群にはレーダー・チャートを用いた面談の際に、努力を強調されたり、前の実習からの+の変化を指摘されても、粘り強く行動することについての自信が弱く、自分に起こることが運や偶然によると思う傾向が強いため、自分の努力を評価し難く、意欲を高め行動することが困難な者が多く含まれていることが推測できる。ゆえに学生個人の特性に関する情報を活用することにより、実習事前・事後指導の効果を挙げうる可能性を示していると言えよう。

表2より、もう1つ指摘できることは、「保育職への憧れ度」、就業志望度と適性認知度における顕著な群差である。L群はH群に比し、保育職への憧れの程度が明らかに低く、保育職に就くこと、特に幼稚園教諭職に就くことについての希望度が一貫して低く、保育職就業の適性が自分にあると認知する程度が顕著に低い。L群には保育職就業についての悩み、迷いを強く持つ者が多く含まれていることが推察される。進路相談と実習事前・事後指導を連携させることにより、保育専攻学生の育ちが期待できるであろう。

【文献】 Bandura, A. 1977. Psychological Review, 84, 191-215. : 広瀬他 1998 日本保育学会第51回研究論文集、664-665. : 鎌原他 1982 教育心理学研究 30, 302-307. : 三木 1998 頌栄短期大学研究紀要 29, 23-32. : 成田他 1995 教育心理学研究、43, 306-314. : Rotter, J. B. 1966 Psychological Monographs, 80, 1-28.

表2 保育所実習、幼稚園実習後の園評価、自己評価、実習自己評価、保育職就業志望度、および保育職適性認知度得点の群別比較

		保実Ⅰ後	保実Ⅱ後	幼実後
園評価				
態度	H 群	36.77(5.33)	39.23(6.42)	40.73(5.99)
	L 群	36.00(6.06)	38.44(7.67)	36.94(5.47)
	t	n.s.	n.s.	*
内容	H 群	20.00(2.89)	22.14(4.00)	22.09(3.62)
	L 群	19.56(3.20)	20.88(4.75)	21.00(2.55)
	t	n.s.	n.s.	n.s.
自己評価				
態度	H 群	33.36(4.07)	33.82(4.85)	34.18(4.60)
	L 群	29.25(4.09)	31.75(4.45)	33.69(3.96)
	t	**	n.s.	n.s.
内容	H 群	18.41(3.54)	17.41(3.27)	17.45(2.84)
	L 群	16.56(3.18)	17.81(3.07)	17.69(2.78)
	t	n.s.	n.s.	n.s.
実習自己評価				
実習への取り組み度	H 群	41.95(3.56)	42.09(2.97)	43.82(2.85)
	L 群	38.06(4.72)	38.81(4.39)	40.69(4.47)
	t	*	*	*
実習園との合致度	H 群	23.95(3.44)	22.45(4.45)	24.32(4.51)
	L 群	20.06(4.55)	19.56(5.53)	22.13(5.36)
	t	**	n.s.	n.s.
実習についての満足度	H 群	13.64(3.01)	13.86(2.96)	15.32(2.69)
	L 群	10.81(3.56)	12.69(3.67)	13.63(4.00)
	t	**	n.s.	n.s.
保育職への憧れ度	H 群	77.3%	59.2%	77.3%
	L 群	25.0%	18.8%	31.3%
	t			
幼稚園教諭職就業志望度	H 群	6.18(1.27)	5.86(1.10)	6.23(1.24)
	L 群	4.69(1.21)	4.81(1.33)	4.94(1.56)
	t	***	*	*
保育士職就業志望度	H 群	5.73(1.48)	5.59(1.47)	5.86(1.46)
	L 群	4.50(0.94)	4.63(1.41)	5.06(1.34)
	t	**	+	n.s.
幼稚園教諭職適性認知度	H 群	4.95(0.93)	4.73(0.62)	5.50(0.72)
	L 群	3.81(0.73)	3.81(0.88)	4.44(0.93)
	t	***	**	***
保育士職適性認知度	H 群	5.00(0.80)	4.82(0.65)	5.23(1.00)
	L 群	4.19(0.81)	4.00(1.12)	4.25(1.15)
	t	**	*	*

(註) H 群: N=22, L 群: N=16 ():SD
* $p<.05$, ** $p<.01$, *** $p<.001$, + $p<.1$